

技報の発刊に寄せて

平成 16 年度からの大学法人化を契機に名古屋大学の技術組織は、名古屋大学全学技術センターに一元化されました。これにともない工学研究科技術部は、「全学技術センター部局系技術支援室工学技術系」として、技術支援を行うことになりました。

今年度から本技術部では、昨年度末に実施した各技術職員の技術分野の調査に基づいた組織配置の見直しを行い、従来の組織配置に比べてより一層の職能別組織となりました。また、国立大学法人という新体制に伴い、労使関係、時間外労働、職場環境等、様々な問題点も浮かび上がってきました。さらに業務面では、教育・研究技術支援のみでなく、新たに職場の環境改善や安全巡視等、労働安全衛生法関係の管理業務も増加してきました。

このように、本年度は、大学法人化と全学技術部組織の一元化という、かつてない大きな変革からスタートしました。私たち技術職員を取り巻く状況は厳しさを増すとともに、ある意味では活躍の場が広がりました。今後は、これまで以上に組織や個人としての存在価値が問われるとともに、相応の評価がなされるものと思われます。全学からの多様な技術支援要求に応えられるよう、一層の研鑽を積むことが求められております。併せて、様々な面で技術職員の意識改革も必要と思われます。

さて、本年度の研修、研鑽活動は、各技術職員が現在従事している業務に関連した内容だけでなく、今後の技術部業務に必要とされる内容を含め、種々のテーマに取り組んできました。例年と比較して多くの技術報告を技術研究会等で発表できましたことは技術職員の技術習得に対する向上心の表れであると思われます。

最後に、本技報は、平成 16 年度における技術報告をはじめ、技術部の業務活動をまとめたものであり、ご高覧頂ければ幸いです。

また、本「技報」の発刊にあたり、多大なるご尽力とご支援を頂きました工学研究科長、副研究科長の方々をはじめとして、教員、事務職員、その他の方々には心より厚くお礼申し上げます。

平成 17 年 3 月

工学研究科・工学部技術部

(全学技術センター部局系技術支援室工学技術系)

統括技術長 林 達也